

テーマ

ボッテジーニはこれまでのコントラバスの演奏と何が違ったのか？

- ・ボッテジーニ自身が弾いている録音は残っているのか？

残っていない

ボッテジーニ没1889年

1877年にトーマス・エジソンが発明した蓄音機

1887年には円盤式蓄音機「グラモフォン」が生まれ

残念!!

1889年 世界初の録音とされているブラームスとエジソンのコラボ

- ・革新的な弾き方

説明済み

バイオリンと同じ持ち方でコントラバスを弾いたのはボッテジーニが初めて

ハーモニクス（倍音）を効果的に使った ←見てみよう！



NEXT→ハーモニクスとは？

ハーモニクス（倍音）とは？

コントラバスの弦を押さえて弓で弾く→その押さえた場所の音になる
弦を押さえずに軽く触れて弾くと「倍音」になる→ハーモニクス（倍音）

実際に弾きながら説明

ボッテジーニ：ハーモニクスを使った独特の作曲技法

弦の1/2（2倍音／1オクターブ）

弦の1/3（3倍音／1オクターブ+完全5度）

弦の1/4（4倍音／2オクターブ）など



NEXT→楽譜



両方ともコントラバス！！

コントラバス

コントラバス



ボッテジーニ作曲 『パッショネ・アモローサ』より

ハーモニクス（倍音）とは？

コントラバスの弦を押さえて弓で弾く → その押さえた場所の音になる
弦を押さえずに軽く触れて弾くと「倍音」になる → ハーモニクス（倍音）



実際に弾きながら説明

ボッテジーニ：ハーモニクスを使った独特の作曲技法

- 弦の1/2 (2倍音 / 1オクターブ)
- 弦の1/3 (3倍音 / 1オクターブ+完全5度)
- 弦の1/4 (4倍音 / 2オクターブ) など

NEXT → 楽譜を拡大

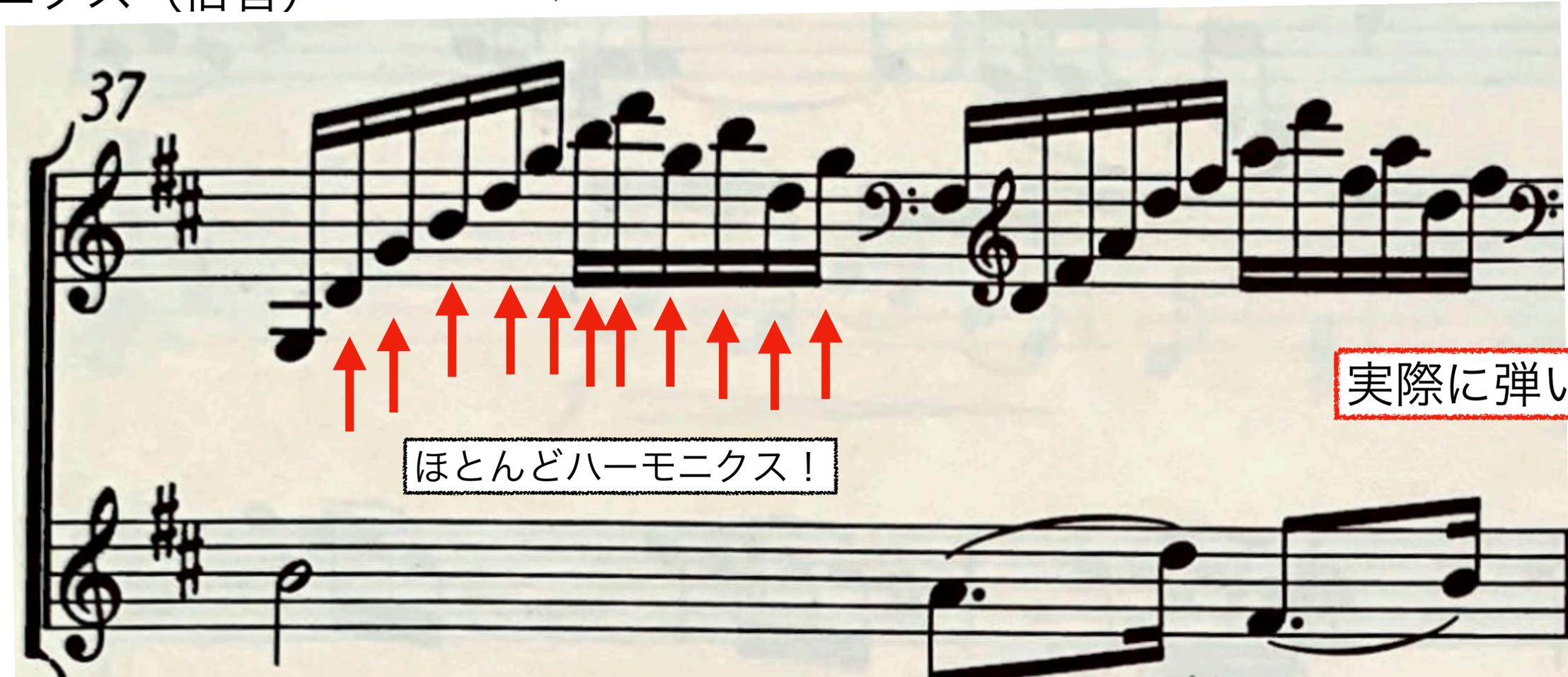
・どっちがコントラバス？



ボッテジーニ作曲 『パッショネ・アモローサ』より

拡大

↑ ←ハーモニクス (倍音)



実際に弾いてみる！

ほとんどハーモニクス！

NEXT→まとめると

テーマ

ボッテジーニは今までのコントラバスの演奏と何が違ったのか？

- ・ボッテジーニ自身が弾いている録音は残っているのか？

残っていない

ボッテジーニ没1889年

1877年にトーマス・エジソンが発明した蓄音機

残念!!

1887年には円盤式蓄音機「グラモフォン」が生まれ

1889年 世界初の録音とされているブラームスとエジソンのコラボ

- ・革新的な弾き方

説明済み

バイオリンと同じ持ち方でコントラバスを弾いたのはボッテジーニが初めて

ハーモニクス（倍音） を効果的に使った 説明済み



NEXT→なぜ、このようなアイデアをボッテジーニは持っていたか？

テーマ

ボッテジーニは今までのコントラバスの演奏と何が違ったのか？

なぜ、このようなアイデアをボッテジーニは持っていたか？

ハーモニクス（倍音）を効果的に使った演奏

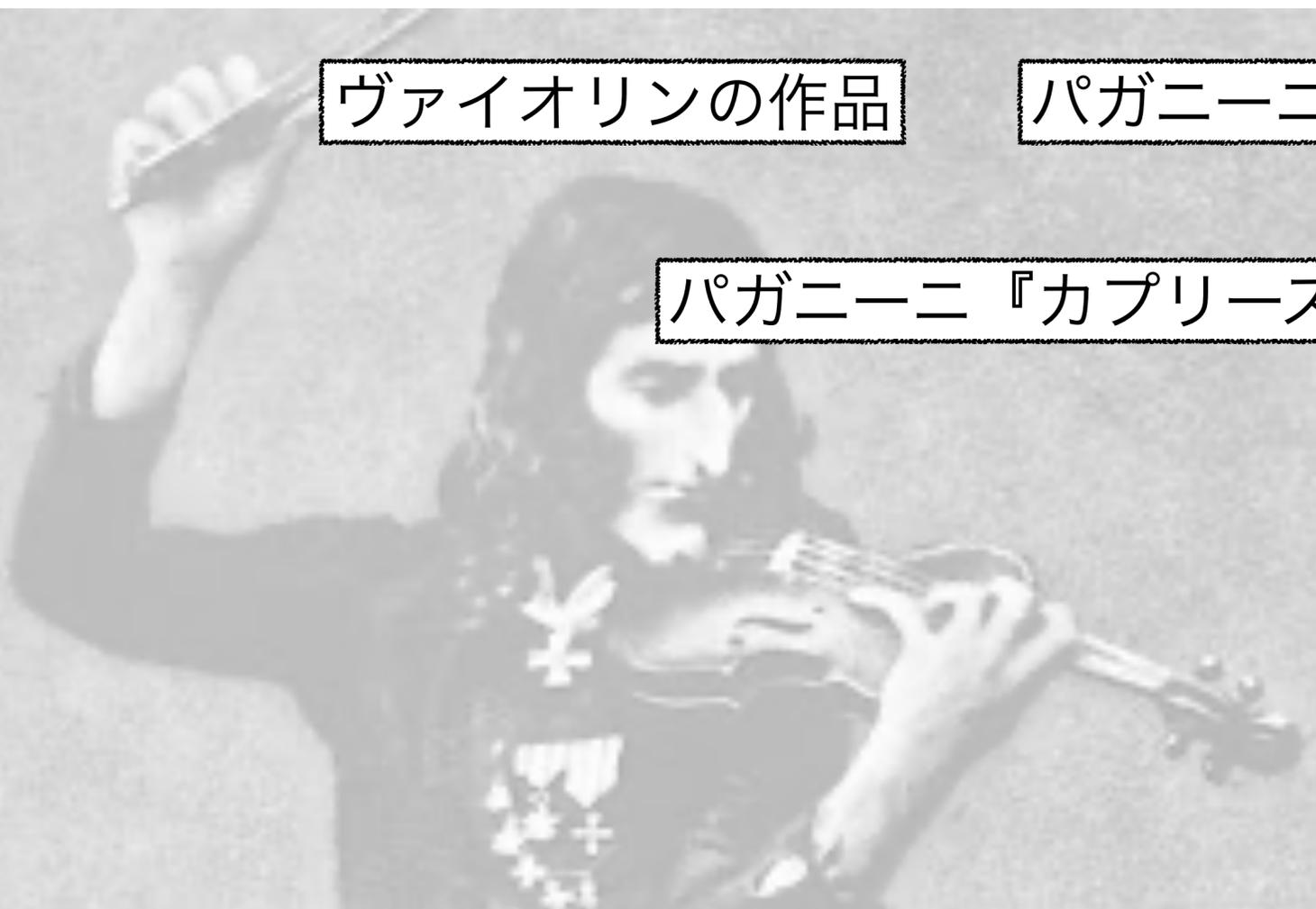
ヴァイオリンの作品

パガニーニ作曲『カプリース』に似たような部分がある

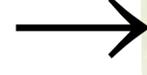
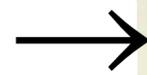
パガニーニ『カプリース』 1820年に出版

ボッテジーニ1821年～1889年

NEXT→さっきの楽譜に戻る



・どっちがコントラバス？



ボッテジーニ作曲 『パッショネ・アモローサ』より

パガニーニ 『カプリース第7番』より

後半で実際にボッテジーニの『パッショネ・アモローサを演奏』

幼少期からの
バイオリンで
習得した技術
を活かす

NEXT→まとめ

まとめ

ジョヴァンニ・ボッテジーニ Giovanni Bottesini

- ・ 幼少期から音楽的な才能には恵まれたが、家庭が裕福ではなかったおかげでコントラバスと出会う
- ・ バイオリンで習得した技術を活かし、今までにない革新的な技巧を確立
- ・ 53年間演奏活動をし、世界各国でコントラバスの演奏は高く評価される
- ・ 『コントラバスのパガニーニ』と称され大活躍



終